

2023(令和5)年度事業報告

(2023(令和5)年4月1日～2024(令和6)年3月31日)

第6期運営基本計画(2021年度～2025年度)の3年度となる2023(令和5)年度は、運営基本計画による事業体系に基づき、より豊かな県民生活の実現に向け事業を実施した。

また、新型コロナウイルス感染症対策の規制が緩和されたこともあり、必要に応じて実施方法を対面に変更して各事業に取り組むなど、事業の維持拡大に努めた。

【基本方針及び目標】

基本方針1 より円滑なコミュニケーションを推進します。

【事業実績】

(1) 多言語による相談体制と情報提供する事業

外国人住民に対して、生活する上で抱える様々な課題の解決に向けて多言語による相談窓口の充実を図った。また、多様な情報発信ツールを活用し、やさしい日本語を含めた多言語による行政・生活情報を効果的に発信した。

ア 相談対応《県委託事業》

① 外国人住民のための相談窓口

日本語、中国語及び英語は随時、タガログ語、韓国語、ポルトガル語、ベトナム語は毎週木曜日10:00～14:00(第4・第5木曜日は予約制)に通訳員による行政サービスや在留資格など外国人住民に関わる各種問合せに対応した。

また、日本語以外の言語で通訳員が不在の場合は外部通訳サービスを利用し、中国語、英語、タガログ語、韓国語、ポルトガル語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、タイ語、スペイン語、ロシア語、ウクライナ語の計13か国語で対応できる体制を整えた。

これまでの電話、メール、ファックスに加え、LINEによる相談体制を整えた。

○ 相談件数：650件(前年度実績 570件)

○ トリオフォン(三者通話電話)利用件数：62件(前年度実績 43件)

○ 相談言語別

(件)

| 言語 | 中国語 | 日本語 | タガログ語 | 英語 | ポルトガル語 | ベトナム語 | 韓国語 | スペイン語 | ネパール語 | その他 | 合計 |
|---------------|--------------|--------------|------------|------------|----------|----------|------------|----------|----------|----------|--------------|
| 件数 (前年度実績) | 372 (292) | 208 (203) | 11 (18) | 22 (22) | 3 (9) | 2 (7) | 22 (10) | 2 (4) | 0 (3) | 8 (2) | 650 (570) |

② 専門家による相談

関係機関と連携して、外国人住民を対象とした弁護士や行政書士などの電話による専門相談を通年で実施した。

○ 相談件数：法律相談 5 件（前年度実績 6 件）

行政手続きに関する相談 1 件（前年度実績 1 件）

③ 相談窓口ニューズレターの発行

在留外国人統計や相談窓口紹介等を掲載したニューズレターを作成し、県内の行政機関等に配付することにより、当協会の相談窓口の広報を図った。

○ 発行月：7 月

○ 発行部数：100 部（前年度実績 100 部）

○ 仕様：A4 判 2 ページ、両面白黒

○ 内容：令和 4 年度相談窓口状況報告、福島県内在住外国人数、福島県内外国人労働者数、外国出身者のための相談窓口の紹介など

○ 配付先：県内の市町村住民関係窓口、保健福祉事務所、児童相談所など

イ 情報提供《県受託事業》

① 多言語による生活情報の発信

多様な情報発信ツールを活用し、7 言語（やさしい日本語、中国語、英語、韓国語、タガログ語、ポルトガル語、ベトナム語）で地域のイベント情報や身近な生活情報、新型コロナウイルス感染症や災害に関する情報を発信し、外国人住民への情報提供の充実を図った。

○ 情報件数：27 件（前年度実績 44 件）

○ 多言語発信回数：182 回（前年度実績 195 回）



○ 言語別内訳

(件)

| 言語名 | やさしい日本語 | 中国語 | 英語 | ベトナム語 | タガログ語 | 韓国語 | ポルトガル語 | 合計 |
|---------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|--------------|
| 回数 (前年度実績) | 26 (41) | 26 (28) | 26 (40) | 26 (20) | 26 (22) | 26 (22) | 26 (22) | 182 (195) |

また、多様な主体が行う国際交流・国際協力活動に関する情報を収集し、SNS を通じて広く県民に対し発信し、県民への情報提供を行った。

| 媒体 | 登録者数(フォロワー数) | 発信回数 |
|--------------------|----------------------|------------------|
| フェイスブック (前年度実績) | 2,016 人 (1,801 人) | 173 件 (168 件) |
| ツイッター (前年度実績) | 298 人 (275 人) | 6 件 (5 件) |

ウ 復興する「ふくしま」の発信

① 復興する「ふくしま」の発信

東日本大震災と原発事故から復興する福島の現状について、多言語で正確な情報発信を行った。

※実績については「イ 情報提供 ① 多言語による生活情報の発信」を参照



(2) 日本語学習の機会を提供する事業

外国人住民の日本語学習意欲に応えるため、日本語学習支援者の育成と県内各地における多様な形の日本語教室開設に向けた支援を行った。

ア 日本語学習支援者の育成《県受託事業》

① 日本語教育支援のためのスタートアップ講座

外国人を採用する企業担当者で日本語指導を勉強したいと考えている方や働く外国人に日本語を教えたいと考えている方等を対象に、実践を意識した講座を6回開催し、新たな担い手のすそ野拡大を図った。

○ 期 間：2月25日（日）～3月24日（日） 計6回

○ 場 所：オンライン（第1回）、郡山市民交流プラザ（第2回～第6回）

○ 参 加 者：監理団体や民間企業等で外国人とかかわりがある方等 のべ81人
（前年度実績 88人）

○ 講 師：インターカルト日本語学校日本語教員養成研究所



② 日本語教室見学会

「日本語教育支援のためのスタートアップ講座」第1回の講座内で、受講者を対象に実際に日本語を教えている様子をオンラインで見学した。参加者自身が外国人に日本語を教えるということをイメージし、日本語学習支援者として実践できるように支援した。

○ 期 間：2月25日（日）

○ 参 加 者：13人（前年度実績 12人）

③ 日本語教育支援のためのスキルアップ講座

既に日本語学習支援に携わっている実践者向けに、スキルアップのための講座を対面で開催した。

○ 期 間：8月6日（日）、9月3日（日）

○ 実施回数：2回

○ 参 加 者：日本語教育の実践者 59人（前年度実績 17人）

○ 内 容：学習者の日本語の会話が上手になる方法を学ぶ講座

- 講 師：笈川 幸司（特定非営利活動法人日本語スピーチ協会）

イ 日本語教室開設に向けた支援《県受託事業》

① ステップ日本語講座

外国人を雇用している企業に講師を派遣し日本語講座を開催した。外国人が学ぶだけでなく、日本人従業員も参加することで、やさしい日本語でのコミュニケーションが取れる内容とした。

- 期 間：8月29日（火）～3月30日（土）
- 実施回数：7企業29回
- 参加者：のべ233人（前年度実績244人）
- 講 師：石橋 英子（フロムココ白河） 他

(3) 社会生活に必要な学習の機会を提供する事業

外国人住民に対して、地域社会のルールや防災・防犯などを学ぶ機会の充実を図った。

また、将来の地域社会の重要な担い手である外国の子どもが、学校への早期適応を図るため、教育委員会と連携して、確実に学習機会が保障されるよう支援した。

ア 外国人住民の生活オリエンテーション《県受託事業》

① 防災講座

留学生や技能実習生と地域で暮らす高校生や町内会等の日本人住民がともに参加し、防災について学ぶ講座を3回実施した。

講座は、初めに災害時に使う日本語やコミュニケーションをとる方法を学び、その後、県及び市職員から地域で起きる災害や避難の方法を学び、シェイクアウト訓練等を全員で実施した。

- 期 間：7月2日（日）～11月7日（火）
- 実施回数：3回
- 参加者：52人（前年度実績65人）
- 講 師：川崎 多鶴子（日本語教師） 他



② 「生活オリエンテーション」の実施

外国人住民が暮らしている地域の様々なルールを学び円滑な地域生活がおくれるようその地域に暮らす外国人住民を対象に、防犯・防火等について学ぶ講座を、県内各地の町内会などの地域団体と連携して実施した。

- 期 間：4月2日（日）～3月20日（水）
- 実施回数：6回
- 参加者：のべ138人（前年度実績 35人）
- 講師：佐藤 美華（インターカルト日本語学校福島サテライト）他

イ 外国の子どもの学校への早期適応支援

《赤い羽根 ポスト・コロナ社会に向けた福祉活動応援キャンペーン「居場所を失った人への緊急活動応援成第6回」受託事業》～12月迄

《赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援キャンペーン 外国にルーツがある人々への支援活動応援成受託事業》～3月迄

平成26年度に設置した「ふくしま外国の子どもサポートセンター」を引き続き運営し、外国出身の子どもを支援するための相談対応、情報提供、日本語テキスト等の教材の貸出し等を行った。

① 外国の子どもサポーターのコーディネート

外国の子どもの学校生活への早期適応を図るため、市町村教育委員会からの依頼に基づき、適切な外国の子どもサポーターを紹介（または派遣）しコーディネートするとともに、支援全般に関わる相談に応じた。

- 紹介件数：17件（前年度実績 16件）
- 派遣件数：0件（前年度実績 0件）
- 相談件数：12件（前年度実績 12件）

② 外国の子どもサポーター研修会

比較的経験の浅い外国の子どもサポーターや学校関係者で外国人児童生徒の支援に携わっている方を対象とした研修会を対面で実施した。

- 日 時：7月22日（土）13：00～16：20 理論編
8月26日（土）13：00～16：20 実践編
- 講師：樋口万喜子（NPO日本語・教科学習支援ネット代表）
- 参加者：延べ18人（うち外国出身者0人）

外国の子どもサポーターのスキルアップを図るための研修会を対面で実施した。

- 日 時：1月20日（土）10:30～15:00
- 講 師：高瀬 円（NPO 日本語教科学習支援ネット）
- 参 加 者：22人（うち外国出身者 0人）（前年度実績 21人（1人））

③ 外国の子ども支援関係者（団体）会議

サポーターや学校、教育委員会など外国の子どもの支援に関わる関係者を対象にオンラインで会議を開催し、関係者間の情報共有と連携強化を図った。

- 日 時：8月2日（水）13:00～15:00
- 参 加 者：21人（前年度実績 27人）
- 内 容：福島県教育委員会からの報告、ムスリムの子どもの学校での受け入れ、意見交換会

④ 外国の子どもサポーター紹介後のフォローアップ訪問

サポーターを紹介（または派遣）して日本語初期指導を支援した外国人児童生徒等の学校を訪問し、当該児童生徒及び担任、日本語指導担当教員等との面談を実施した。当該児童生徒からは日常生活の出来事を傾聴し、担任及び日本語指導担当教員には支援についてのアドバイス等を行った。

- 訪問件数：10件（前年度実績 2件）

【基本方針及び目標】

基本方針 2 多文化共生の更なる意識の醸成と外国人住民の地域社会への参画を促進します。

(1) 多文化共生の更なる意識の醸成の機会を提供する事業

様々な機会を捉えて多文化共生についての理解促進を図り、地域社会全体への浸透に努め、外国人住民との相互理解を推進した。

ア 多文化共生の意識の啓発と醸成

① 人材育成

高校生以上の学生を対象に関係機関の協力を得ながら、各種講義、英会話イベント、

フィールドトリップ、講演会、海外研修、発表会等を実施し、将来の福島県を担う学生の人材育成に取り組んだ。

参加者：38人（高校生20人、大学生10人、短大生4人、専門学生4人）

（前年度実績 22人（高校生10人、大学生6人、短大生3人、専門学生3人））

・講義

○ 日 時：4月1日～3月31日（第1、第3週の土曜日）

○ 場 所：当協会研修室

○ 参加者：38人（前年度実績 22人）

○ 内 容：月ごとに社会性、多様性、国際性等のテーマを設定し、「自分の目で見
る、知る、自分で考える」ことに重きをおいた講義を実施。

・特別講義

㊦ 福島県の障がい者就業の現状について

○ 日 時：1月13日（土）

○ 場 所：当協会研修室

○ 参加者：10人

○ 講 師：佐藤和歌子（社会福祉法人つばさ福祉会県北障害者就業・生活支援センター）
小野 夏美（ ” ” ）

㊧ 「福島でのイベント開催」について

○ 日 時：1月20日（土）

○ 場 所：福島市男女共同参画センター

○ 参加者：13人

○ 講 師：齋藤 友希（株式会社Ploion）

・英会話イベント（English Encounters）

○ 日 時：4月1日～3月31日（第4週の土曜日）

○ 場 所：当協会研修室

○ 参加者：38人（前年度実績 22人）

○ 内 容：様々な国籍（アメリカ、オーストラリア、イギリス、ドイツ）の講師が
学生に「海外の多様な価値観」を共有するとともに、発話機会を多く設
けることで英語力の底上げを図る。

・フィールドトリップ

㊨ 東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉町）

○ 日 時：9月30日（土）

- 参加者：7人
- 内 容：開沼博氏による特別講座の聴講、伝承館見学
- ④JICA 二本松青年海外協力隊訓練所（二本松市）
 - 日 時：11月11日（土）
 - 参加者：10人
 - 内 容：訓練所の職員による講義、派遣前の協力隊訓練生が実際に訓練を行う
施設見学等
- ⑦福島県危機管理センター（福島市）
 - 日 時：3月26日（火）
 - 参加者：12人
 - 内 容：福島県危機管理センター職員による福島県の災害や防災の現状について
の講義、見学、VR 動画の視聴等

・講演会

- ⑦『これからの「ふくしま」について考える』
 - 日 時：10月14日（土）
 - 場 所：福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ
 - 参加者：23人
 - 講 師：天野 和彦（福島大学地域未来デザインセンター）
- ④「デジタルトランスフォーメーションで進む世界」
 - 日 時：2月24日（土）
 - 場 所：郡山市民交流プラザ
 - 参加者：22人
 - 講 師：松本 国一（富士通株式会社シニアエバンジェリスト）

・海外研修

- 日 時：8月12日（土）～8月24日（木）（13日間）
- 場 所：オーストラリア・ケアンズ
- 参加者：9人（学生6人、引率3人）
- 内 容：①知識や技術の習得、②異文化理解の深化、③語学力の向上、④国際的
な出会い、⑤自己成長を目的とした様々な活動を実施。

・発表会

- 日 時：1月20日（土）
- 場 所：福島市男女共同参画センター

- 参加者：17人
- 内 容：「This is my Global Encounter!!」をテーマに前半は学生による国際交流イベントアイデア発表会を実施、後半は福島県出身の学生コミュニティ「Spread From Fukushima」の活動プレゼンテーションと a.ru.ku 出版株式会社によるイベント構想プレゼンテーションを実施。

・ FIA meeting in Koriyama～春～

- 日 時：3月30日（土）
- 場 所：ホテルハマツ（郡山市）
- 参加者：70人
- 内 容：「公益財団法人福島県国際交流協会の3つのミッション」の新規提示を通して、企業や団体、個人の参加者に当協会事業への理解を深めてもらう機会を作った。第一部は今後の協会事業構想についてのプレゼンテーション、第二部は食事会とともにモニターを用いた各事業のプレゼンテーションを実施。



② オンライン日本語サロン《県受託事業》

外国人と日本人の青年層を対象にオンライン日本語サロンを定期的に行い、やさしい日本語でのコミュニケーションを推進した。

ZOOMを利用して日本人と外国人がやさしい日本語を使って会話を楽しむ講座を1期4回で年2期8回開催し、日本人は高校生以上29名、外国人は大学生以上40名、合計69名が参加した。

- 期 間：6月7日（水）～3月1日（金）
- 実施回数：年2期8回開催
- 参 加 者：69人（前年度実績 201人）
- 講 師：下田 まりこ（（公財）いわき市国際交流協会日本語教室）

③ 多様な主体との連携

・ふくしまグローバルセミナー

福島県国際理解教育ネットワーク（構成団体：JICA 二本松、福島県教育委員会、福島県国際課、当協会）の主催により、国内外の現場で活躍されている方や福島で暮らす外国人住民などの話を聞きながら、国際交流、多文化共生などに理解を深める4つの講座を実施。今回は、セミナーのみならず異文化体験や各種ブース出展などもある「ふくしま国際交流フェスティバル」として開催した。

- 日 時：10月14日（土）10：00～15：00
- 場 所：MAXふくしま4F アオウゼ（AOZ）
- 参加者：83人（グローバルセミナー）

・国際理解講座

公民館や学校等からの要請に応じて、出張型やオンラインで異文化理解や多文化共生等をテーマとしたさまざまな講座を実施した。

- 参加者：816人（前年度実績 1,169人）
- 講座名と実施回数

| | 講座名 | 実施回数 |
|---|----------------------|------|
| A | 世界がもし100人の村だったら | 8 |
| B | これっておもしろい | 6 |
| C | 魚とりゲーム | 0 |
| D | 地球の食卓 | 3 |
| E | その他（依頼団体の講座のねらいに応じて） | 3 |

合計 20 回（前年度実績 33 回）

・国際交流・協力団体ダイレクトリーの発行

県内の国際交流・協力団体の活動状況を調査し、国際交流・協力活動に参加したい県民に対し、団体の連絡先、目的、活動内容等の基本情報をホームページに掲載した。

- 照会時期：12月
- 登録団体数：98団体（前年度実績 114団体）

・国際交流・国際協力活動を行う団体の総会等への出席

- 出席件数：10件（前年度実績 4件）

・関係機関への講師や委員等への派遣

関係機関が主催する各種会議の委員等として、当協会職員を派遣した。

- 派遣数：2件（前年度実績 1件）

・職場体験の受入れ

福島市内の中学校の職場体験を受け入れた。

○ 件 数： 2 件（4 人）

・多文化共生・国際交流人材バンク及びボランティアの登録

多文化共生による地域づくりの担い手としての人材の登録を行い、他団体からの依頼に応じた登録者の紹介及び登録者に対する情報提供を行った。

なお、今後は現行の登録制度を見直し、再構築をする予定である。

○ 人材バンク登録者数：239 人（うち外国出身者数 70 人）（前年度実績 218 人（69 人））

○ ボランティア登録者数：137 人（うち外国出身者数 34 人）（前年度実績 136 人（34 人））

イ やさしい日本語の普及《県受託事業》

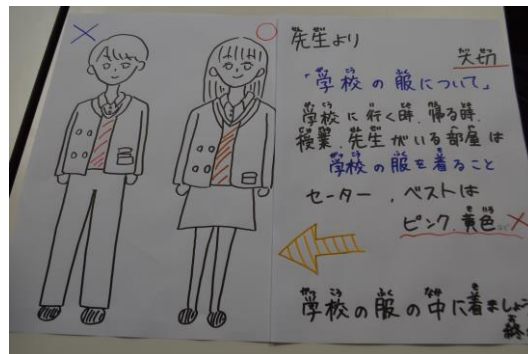
① やさしい日本語セミナーの実施

外国人住民と接する機会が多い福島信用金庫等の民間企業及び本宮市役所等の行政機関を対象に実施した。また、学校や学習センター等において、住民向けにやさしい日本語セミナーを実施した。

○ 実施回数：28 回

○ 講 師：永島 恭子（（一社）ふくしま多言語フォーラム）他

○ 参 加 者：535 人（前年度実績 235 人）



② やさしい日本語協働パートナーズ会議

やさしい日本語を主体的に普及・実践する市町村や企業とネットワークを構築し、取組内容等の共有、連携による意見交換等をオンラインで2回開催した。

③ 福島県在住外国人によるスピーチコンテスト（自主財源事業）

やさしい日本語を普及するため、外国人と日本人が相互に理解を深める場として、福島県内全域で生活する小学生以上の外国人を対象とした日本語スピーチコンテストを初開催した。16 か国 56 名の外国人から申し込みがあり、県内 3 地区の予選会から選ばれ

た 9 か国 16 名が本選に進んだ。運営費用はクラウドファンディングや企業等からの寄附金を活用した。

○浜通り予選

日 時 8月6日(日) 13:00～

場 所 南相馬市民情報センター マルチメディアホール

出場者 15名(学生部門 1、一般部門A 10、一般部門B 4)

○中通り予選

日 時 8月27日(日) 13:00～

場 所 郡山市民交流プラザ 大会議室1

出場者 25名(学生部門 8、一般部門A 9、一般部門B 8)

○会津予選

日 時 9月3日(日) 13:00～

場 所 会津若松市文化センター 展示室兼会議室

出場者 16名(学生部門 3、一般部門A 9、一般部門B 4)

○本選

日 時 10月28日(土) 13:00～

場 所 とうほう・みんなの文化センター 小ホール

出場者 16名(学生部門 5、一般部門A 5、一般部門B 6)



④ やさしい日本語普及員の活動

新たなネットワークを構築するきっかけとして「やさしい日本語普及員」を養成し、草の根レベルでの普及を行った。普及員が活動する中で、やさしい日本語セミナー開催につながるがあった。

○人 数：11人

○活動時期：6月～3月

○普及先：職場、家族、団体など

⑤ 国際交流フェスティバル等への出展

多様な主体が主催するイベントへの出展を通してやさしい日本語の普及を行い、新たなネットワークの構築につとめた。

- 出展件数： 5 件（前年度実績 4 件）

⑥ 広報活動

- 「やさしい日本語」リーフレット 2500 枚配布
- 「やさしい日本語」缶バッジ 2000 個作成、受講生に配布
- 「やさしい日本語」エコバック 500 枚、受講生に配布
- 「やさしい日本語」シール及びノート作成、受講生に配布

(2) 外国人住民の地域社会への参画を促進する事業

県内各地で活躍している外国人住民を発掘・紹介し、地域社会でさらに活躍の場を広げられるよう支援する。

ア 活躍する外国人住民の発掘・周知

① 外国人住民の人物紹介発信

より多くの外国人住民とのパートナーシップを構築するために、多文化共生の地域づくりの担い手として様々な活動に現在取り組んでいる外国人住民を発信した。

イ 復興する「ふくしま」の発信（再掲）

① 外国人住民による復興する「ふくしま」の発信

多様な情報発信ツール等で、外国人住民が福島での日常生活を通して見る「ふくしま」の現状や復興の様子について、自らの言葉で県内外・国内外に情報発信する機会を提供した。

1 財源

効率的な予算執行及び財源の確保に努めるとともに、民間助成金の採択を得た結果、外部資金が増加した。一方で、賛助会費はコロナ禍での団体会員の減少や個人会員の高齢化により落ち込んだ。基金の運用については、安全性を重視しながら引き続き運用益の確保に努めた。

(1) 収支計画実績

(単位：千円)

| | 令和5年度実績(a) | 令和5年度計画額(b) | 差額(a-b) |
|---------------------|------------|-------------|---------|
| 運用益収入 | 11,475 | 11,475 | 0 |
| 事業収入等 ^{※1} | 4,245 | 4,391 | △146 |
| 県補助金等 ^{※2} | 36,348 | 37,909 | △1,561 |
| 外部資金 ^{※3} | 1,802 | 1,536 | 266 |
| 収入合計(A) | 53,870 | 55,311 | △1,441 |
| 事業費 | 53,605 | 56,216 | △2,611 |
| 管理費 | 9,124 | 9,408 | △284 |
| 支出合計(B) | 62,729 | 65,624 | △2,895 |
| 収支(A-B) | △8,859 | △10,313 | 1,454 |
| 特定資産取崩 | 6,000 | 6,000 | 0 |

※1 受取会費、受取寄附金、受取負担金、雑収益 ※2 県補助金、県受託金 ※3 民間助成金、民間受託金

(2) 寄附金

- 件数： 13 件（前年度実績 1 件）
- 金額： 2,543,816 円（前年度実績 1,850,000 円）

(3) 賛助会費

- 件数： 個人会員 64 人（うち新規 5 人）、（前年度実績 75 人（6 人））
団体会員 52 件（うち新規 0 件）、（前年度実績 52 件（1 件））
- 金額： 718,000 円（前年度実績 797,000 円）

・事業体系図

